

平成 21 年 4 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530245

研究課題名（和文） グローバリゼーション下の経済発展と
金融制度に関する政治経済学的分析研究課題名（英文） A Political Economy of Economic Development and Financial
Institutions under Globalization

研究代表者

藪下 史郎(YABUSHITA, Shiro)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30083330

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学、財政学・金融論、3606

キーワード：経済発展、金融制度、グローバリゼーション、政治経済制度、ROSCA、インフ
ォーマルな金融制度、グループ貸付、マイクロクレジット

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、市場や情報の不完全性の観点から「経済発展と金融制度」という問題を理論的かつ歴史的・実証的に分析することである。

加えて、これらの問題をグローバリゼーションの視点から政治経済学的なアプローチを用いて分析することである。

さらに、これらの研究から得られた分析結果を研究会等で発表するとともに、論文また書籍としてまとめることにする。

2. 研究の進捗状況

これまでの研究の進捗状況は以下のよう
にまとめることができる。

- (1) 途上国経済においては、多くの市場とくに金融市場においては情報が不完全であり、新古典派経済学が想定するような完全競争的市場は存在していない。そうした経済に生まれているインフォーマルな金融市場の分析を行った。一つの分析は、共済組合的な組織である、ROSCA という金融制度に関するものである。この分析では ROSCA の経済的意味を理論的かつ歴史的に考察している。これは大学院生の和島隆典氏との共同研究である。この研究成果については 2007 年香港でのコンファレンスで発表するとともに、研究の一部は早稲田大学現代政治経済研究所叢書に収録した。

- (2) 途上国経済でのインフォーマルな金

融制度に関する研究として、もう一つはマイクロクレジット制度の理論的分析である。この研究では Stiglitz が提示したモデルを再考することによって、グループ貸付の経済的意味を検討した。これは研究生の松田慎一氏との共同研究であるが、研究成果は早稲田大学政治経済研究所叢書に発表した。

- (3) グローバリゼーションは経済のみならず、政治面でも「テロとの戦い」という複雑な問題を生みだしてきた。テロリズムを政治経済学的な視点から検討した Alan Krueger 著 What makes a Terrorist: Economics and Roots of Terrorism を翻訳することによって、この問題を考察した。早稲田大学 GCOE のコンファレンスでの、「価値理念の実証研究」に関するセッションにおいて、同書で問題にしていることを報告し、パネリストとの意見交換を行った。
- (4) 「非対称情報下における金融市場」に関するこれまでの研究成果を反映する「金融論」のテキストを執筆した。本書は 2009 年中に刊行予定であるが、本研究プロジェクトの成果を広く普及する効果を持つと期待している。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

インフォーマルな金融制度についての論文を求めることができたこと、また「非対称情報の下での金融市場と制度」に関する研究成果を反映する、一般書をまとめることができたこと。後者によって研究から得た知見を広く普及することができる。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究成果を踏まえて、さらに以下の方向で研究を進めていく。

- (1) グループ貸付についての理論モデルを、たとえば連帯保証率を生内化するなど、拡張をすることによって、より一般的な市場モデルでの均衡資金配分について検討する。
- (2) ROSCA が共済組合的な組織として持続するための条件を考察し、そこで社会資本としての社会制度などの役割を検討する。これは単に経済学だけではなく、社会学的な視点が必要となる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

— 藪下史郎、和島隆典「頼母子講から無尽会社へー理論と歴史」、清野一治編著『金融・通貨制度の経済学』、早稲田大学現代政治経済研究所叢書、30、3-32、早稲田大学出版部、2008年12月、査読無。

— 藪下史郎、松田慎一「マイクロクレジットとグループ貸付 Stiglitz モデルの再考」、清野一治編著『金融・通貨制度の経済学』、早稲田大学現代政治経済研究所叢書、30、33-60、早稲田大学出版部、2008年12月、査読無。

— 藪下史郎「グローバリゼーションとは何か、その光と影」、『共済と保険』、第50巻、第10号、16-22、2008年10月、査読無。

— 藪下史郎「本書の課題と構成」藪下史郎、清水和巳編『地域統合の政治経済学』序章、1-8、東洋経済新報社、2007年3月、査読無。

— Yabushita, S. “Waseda 21 COE-GLOPE and the Beijing International Conference,” The Waseda Journal of Political Science and Economics, No. 363, pp.2-6, April 2006. 査読無。

〔学会発表〕(計 4 件)

— 藪下史郎「新しい政治経済学の確立にむけて」、早稲田大学 GCOE (制度構築の政治経済学) 国際コンファレンス「期待、制度、グローバル社会」セッション『『テロの経済学』(アラン・クルーガー著)をめぐって価値理念の実証研究』、2009年1月23-4日、早稲田大学。

— Yabushita, S. and T. Wajima, “Economic Theories of Roscas: Overview and Discussion.” (with T. Wajima), A Keynote paper presented at the 2007 CityU- Waseda Joint Conference: Research in Global Economic and Financial Issues: Theory, Empirics and Experimental Methods held at City University of Hong Kong, September 20-21, 2007.

— 藪下史郎、和島隆典「ROSCA の理論：概観と若干の考察」、ポスト・ケンジャン研究会、二松学舎大学、2007年3月20日
— Yabushita, S. “Comment on D. Weinstein “Are Japanese Prices Set in China? Inflation, Deflation, and the Measurement of Prices in Japan.” March 10, 2007 (“JAPAN AND WORLD” A Conference of Japan’s Contemporary Geopolitical Challenges in Honor of the Memory of Asakawa Kan-ichi, held at Yale University, March 9-10, 2007)

〔図書〕(計 4 件)

— 藪下史郎訳、アラン・B・クルーガー著『テロの経済学：人はなぜテロリストになるのか』258頁、東洋経済新報社、2008年8月。

— 藪下史郎監修、川岸令和編『立憲主義の政治経済学』、243頁、東洋経済新報社、2008年3月。

— 藪下史郎監訳、藤井清美訳『スティグリッツ教授の経済教室：グローバル経済のトピックを読み解く』、325頁、ダイヤモンド社、2007年10月。

— 藪下史郎、清水和巳編『地域統合の政治経済学』、246頁、東洋経済新報社、2007年3月。